

各 位

会 社 名 株式会社リプロセル
 代 表 者 名 代表取締役社長 横山 周史
 (コード番号：4978、東証グロース市場)
 問 合 せ 先 取締役 CFO 赤野 滋友
 (TEL. 045-475-3887)

2022年3月期通期個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、個別業績予想を開示していませんが、2022年3月期（2021年4月1日～2022年3月31日）通期個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期（通期）個別業績と前期業績値との差異（2021年4月1日～2022年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前期（2021年3月期） 実績（A）	605	△768	△559	△997	△13.96
当期（2022年3月期） 実績（B）	1,284	△470	△381	△541	△7.13
増減額（B－A）	679	297	177	456	－
増減率（％）	112.1	－	－	－	－

2. 前期実績値との差異の理由

売上高：新型コロナウイルスPCR検査事業が好調に推移し、売上高の増加を大きく牽引しました。また、研究支援事業についても堅調に推移しており、当期実績が前期実績を大幅に上回りました。

営業利益及び経常利益：再生医療製品ステムカイマルの国内第II相臨床試験において、前期は被験者への投与を積極的に進めたため研究開発費用が大きくなりましたが、全被験者への投与が2021年5月に完了し、その後、観察期間に入ったため、当期は前期に比べ研究開発費用が減少しました。さらに、前述のように、売上高が前期実績を大幅に上回ったことに伴い、事業収益も増加しました。その結果、営業損失および経常損失ともに、前期に比べ損失幅が縮小しました。

当期純利益：当社の連結子会社であるBioserve Biotechnologies India Pvt. Ltd.（インド）の財政状態及び経営成績を勘案した結果、「金融商品に関する会計基準」に基づき、当社が保有するBioserve Biotechnologies India Pvt. Ltd.の株式について、関係会社株式評価損142百万円を計上しましたが、増収及びステムカイマル治験費用

の減少により、当期純損失は、前期に比べ損失幅が縮小しました。

以上の理由により、2022年3月期通期個別業績と前期実績値との間に差異が生じています。

なお、当該関係会社株式評価損は、個別財務諸表のみで計上されるものであり、連結決算においては相殺消去されるため、連結財務諸表への影響はありません。

以上